

第 21 回遠州広域行政推進会議 議事録

- 1 日 時 令和 4 年 2 月 7 日(月) 15 : 30 ~ 17 : 00
- 2 場 所 袋井消防庁舎・袋井市防災センター 3 階 研修室
- 3 出席者 浜松市長 (座長)、磐田市長、掛川市長、袋井市長、湖西市長、御前崎市長、菊川市長、牧之原市長、森町長
- 4 概 要 以下のとおり

議題 1 「地域企業×スタートアップ」の融合による地域産業の活性化

資料に基づき、事務局（浜松市スタートアップ推進課）が説明した。
事務局からの説明に基づき意見交換を実施した。

- 【袋井市長】スタートアップに関しては、様々な企業をイメージするということでスタートしたと思うが、スタートアップゆえの規模の違いであるとか、ある意味脆弱性もあると思う。どのようなスタートアップをイメージすれば良いのか、考えを伺いたい。
- 【事務局】実証実験を実施して、最終的に誘致という形をイメージしている。実証実験を行うことを考慮すると、起業間もないというよりは、もう少し成長したスタートアップが対象になると考えている。
規模に関しては、すぐに上場するような企業に限定するものではないと考えている。
- 【掛川市長】スタートアップの誘致や支援について、効果や目的をどのようにとらえているか。
- 【事務局】スタートアップを支援することで、スタートアップの成長を促す効果以外にも、スタートアップが持つアイデアなどが地域企業との連携によりイノベーションを起こし、地域企業の成長にもつながると考えている。また、地域課題解決をテーマにしており、地域住民の QOL（生活の質）が向上するという効果も期待できる。
- 【磐田市長】トライアル発注について、磐田市だと、大手企業が実証実験を行っている事例がある。トライアル発注の対象は中小企業だけなのか。また、地元企業との連携がない、県外のスタートアップについてはどのように考えているか。
- 【事務局】トライアル発注については、全国的にも中小企業支援という意味合いが強く、遠州地域でも同じように中小企業を対象に考えている。また、遠州地域外の企業については、地域内に拠点を設けることを要件にすることで、誘致にもつながるものと考えている。
- 【御前崎市長】浜松市がスタートアップに提案した課題が例示されている

が、手をあげた全てのスタートアップと一緒に取り組むのか、手をあげた中から選考するのか。

- **【事務局】**浜松市から提案した課題について、全てに手があがったわけではない。また、手をあげていただいた中でも、実証実験まで至った課題は一部である。

遠州地域で課題を提案する場合には、各自治体の課題をまとめて提案し、手をあげていただいたスタートアップと各自治体とで進めていく形になると考えている。

- **【御前崎市長】**スタートアップが自立するまで行政が補助金等を支出していると思うが、そういった支援はどのように考えているか。
- **【事務局】**浜松市の場合、スタートアップを対象にした補助金もあるが、スタートアップからは、地域や関係機関との橋渡しの役割を期待されることも多い。
- **【浜松市長】**スタートアップは、新しいビジネスモデルや技術を立ち上げて実証実験をしなければならないので、例えば、地域への説明やお願いについて、行政が支援するとスタートアップは助かる。

また、行政から課題を提示するのではなく、「スタートアップピッチ」と言って、スタートアップから行政に対して、「こういう課題を解決できます」という提案をしてもらうこともある。

スタートアップだからこそ、いろいろな取組みができるので、浜松市では試行錯誤で始めて、あまり型にはまらず、とにかくやってみることが大事という姿勢でこれまでやってきている。

- **【御前崎市長】**取り組む課題は、広域で共通する課題にするのか。各市町にいろいろな課題があるので、解決したい課題は違うと考えるがどうか。
- **【事務局】**詳細はこれから詰めていくが、各市町から様々な課題が出てきた方が良く考えている。各市町から課題を出していただき、課題を出した市町が中心になって取り組めば良いと考える。
- **【牧之原市長】**例えば、カーボンニュートラルのような大きな範囲の大きな課題もある。ある程度大きな課題については、1つの自治体だけで対応することは難しいので、連携して取り組む意味合いが大きいと感じている。
また、例えば農業問題で言えば、既存の地元企業があるので、行政とベンチャー企業が組むだけでなく、既存の企業や農家も巻き込んで研究開発する必要があると思う。1つのことを具体的に取り組むイメージができると取り掛かりやすくなるのではないかと。これまでの説明を聞き、連携して取り組むべきと感じた。
- **【湖西市長】**地域課題は個別にあるので、自治体からの課題提案とスタートアップからのフリー提案と両方実施してみると良いと思う。遠州地域の8市1町で連携するのか、3市町くらいで連携するのかという点もあるの

で、これから詰めて増やしていければ良い。

また、せっかく広域で実施するのであれば、人材育成については、具体的に詰めていただきたい。高校生になると、市域を越えて通学している生徒も多い。1つの市の中だけで人材育成しようと思っても行き届かないので、教育やアイデア募集、事例紹介など、オンラインの活用も含め広域で進めていただきたい。

- **【菊川市長】** 人材育成は非常に重要であると考えている。今回の話を聞くと、広域で実施することが良いと感じた。スタートアップについては、我々が想定しないようなアイデアが、企業の急成長や地域課題の解決につながるのだと思う。地域に多くの課題があるが、農業や後継者の問題は遠州地域で一緒に取り組むことができると考える。

人材育成は、地域に残ってもらえる若者を増やすことにつながるもので、広域で連携して取り組むと良いと思う。

- **【森町長】** 前回と今回の説明により、随分具体的にイメージできるようになった。浜松市長が言うように、とにかくやってみるということであるので、できるだけ各自治体に共通するテーマで取り組んでいき、具体的にできればより理解が深まると思う。
- **【浜松市長】** 今回のご意見を踏まえ、担当部門等でブラッシュアップし、次回また提案していただくこととする。

議題2 2023年大河ドラマ「どうする家康」について

資料に基づき、事務局（浜松市観光・シティプロモーション課）が説明した。事務局からの説明に基づき意見交換を実施した。

- **【御前崎市長】** 家康公のゆかりのものとして、白羽柑子（しろわこうじ）を持ってきた。家康公が白羽柑子の陰に隠れて難を逃れたということで、献上したという記録がある。ほかにも家康公にまつわる急須の話などがある。
- **【掛川市長】** 高天神城があるが、見るべきもの、残っているものが少ないので、VRやARを使って往時の姿を再現するようなことを考えている。今日の提案にあった周遊マップについて、各所の照会をしてもらいたい。また、大河ドラマ館についても、誘客やお互いに共有できる呼びかけなど、できることについて協力したい。
- **【袋井市】** 今回の大河は、西から三河、遠州、駿河の3つがフィールドになると考える。各市町の独自の取り組みもあるが、遠州地域が一体となって取り組むことは素晴らしいと思う。実務担当者連絡会では、NHKに対する情報発信という点について、取り上げていただきたい。
- **【牧之原市長】** 牧之原市は、家康公が晩年鷹狩りの拠点にしており、牧之

原台地を幕臣が開墾した関係もあり、所縁の神社などがある。ぜひNHKを巻き込んで発信してもらえると良い。

- **【森町長】**各市町に色々なゆかりがあると思うので、年代別に時系列が分かるような資料が良いと思う。先ほどNHKについての話があったが、時代考証の小和田先生にもアプローチしていただきたい。

また、「どうする家康」は、家康の生涯のどの辺にスポットを当ててるのか。それが分かれば、その年代のエピソードを中心に各市町から情報を集めるとより良いと思う。

- **【菊川市長】**菊川市にも家康公ゆかりの地名がある。先ほど高天神城の話があったが、高天神城の戦に関係がある獅子ヶ鼻砦を少しきれいに整備したいと考えている。遠州地域での周遊に力を入れるというのはとても良いと思う。
- **【磐田市長】**学校の事業で家康公について取り上げても、地域の歴史とどのようにリンクしているかという学びが足りていない。磐田市ではその点について力を入れる予定だが、周遊マップをせっかく作るのであれば、外から人を呼び込むことも大事だが、遠州地域の人が地域内を回ったり知ったりすることで、愛着や愛郷心を持つことにつながるような工夫をしてもらいたいと考えている。
- **【浜松市長】**活発なご意見をいただき感謝する。